



### 第二回福武文化賞 受賞の栄に浴して

山口松太

岡山県は良質の漆(備中漆)を産し、漆芸家として数人の先人が知られています。そのうち、私が師事した故難波仁齋先生は、備中漆の特質を活かした描蒔(びやくまき)の技法を創案し、日本伝統工芸展で活躍されました。

備中漆は、奈良時代から今日に至ると考えられています。昭和三十九年には存続の大きな危機を迎えました。この時期、急激な経済成長に伴い、漆の需要は飛躍的に伸びたのですが、増加した需要は安価な輸入漆によって賄われ、日本産漆の需要はかえって減少、全国的にも産地の荒廃が進みました。岡山の中心だった備中町でも漆を掻く人

は少なくなりました。

備中漆に魅せられた一人として、このような状況からの復興は漆芸に携る者の急務と考え、備中漆を扱う漆芸教室を開くとともに、山林を購入して漆の植栽も始めました。その後、昭和五十一年に岡山県文化奨励賞を頂戴したおり、当時の長野知事に実情をお伝えしたところ、翌日には高梁の振興局から連絡があり、備中町での漆の植栽事業が始まりました。私にとっても、漆の植栽にのめり込んだ十余年でしたが、それは後に私を堆錦の世界へと導いてくれました。



乾漆堆錦箱「古夢想」

漆芸教室からは、作家も生

まれ、今では彼らが次の世代を育ててくれています。備中漆は現在も行政や企業のメセナ、漆の伝統を守ろうとするボランティアたちの手で引き継ぎ植栽が進められ、全国的にも注目されています。

原・材料としての漆の面倒を見る一方で、作品となった漆の美しさを見ていただくための、日本伝統漆芸展の岡山への誘致を計画していましたが、今年三月に願いが叶い、天満屋岡山店で開催することができました。福武文化振興財団にもご支援をいただき、成功裏に終えられたことは嬉しい限りでありました。その上、続いての福武文化賞は予期し得ぬことで、岡山県の伝統工芸の分野では、少数派ともいえる漆芸の私によくぞと、驚きの受賞でありました。これからは、文化の香り高い吉備の国に育まれた幸せ、先人の築き上げた大きな流れの中で浴してきた無類の恩恵に対する心からの感謝を、作品の創作に活かして行きたいと念願しております。

### 行事案内

- 文化発表会
  - 昨年度、文化関係助成を受けた個人・団体が一年間の活動の様子を発表
  - 九月二十二日(土) 十四時開会
- 岡山プラザホテル
  - 教育・文化講演会
  - 「おかやま教育の日」協賛行事として、郷土岡山が生んだ画家国吉康雄の紹介と作品の鑑賞
  - 十月二十九日(月) 十三時三十分開会
- ベネッセコーポレーション本社大ホール
  - 教育研究発表会
  - 教育研究助成を受けた先生方の先進的な実践発表
  - 十一月二十九日(木) 十四時開会
- ベネッセコーポレーション本社大ホール
  - 教育・文化講演会
  - 一月十日(木) (予定)
- 『不易』第十一号発行・配布
  - 一月二十一日(月)

### 編集後記

当教育・文化財団の執行体制が福武總一郎理事長と宮地暢夫・小寺聰副理事長を中核にしたものになって、年度はじめの理事会、贈呈式などの主要な行事が順調に進んでいる。政治・経済の世界では「構造改革」によって二十一世紀の新しい日本を期待する世論は、不安を抱きながらも根強いものがある。ある団体の報告書に目を引く一文があったので紹介したい。「日本の構造改革も、想像力の源である『芸術文化』を置き去りにしては成し遂げられません。芸術文化は、『破壊的創造』そのものであり、芸術文化支援こそ、未来への重要な公共投資ではないでしょうか。・・・」

# 不 易

## がんばっています！

### 第十五回 福武哲彦教育賞受賞

#### 岡山県立 精研高等学校

今回は井原市の岡山県立精研高等学校を訪ね、芳田泰朗校長先生にお話しを聞きました。「うちの強みは校内のどこでもコンピュータが使えることです」とおっしゃるとおり、情報教育の推進に力を入れておられます。

精研高校の特徴はTV会議システムをうまく取り入れていることです。修学旅行で今年初めてシンガポールへ行った際、事前にTV会議システムを利用して交流が行われたので、滞在先では一つのグループに数名の現地の生徒さんが付き親しく案内してくれる

など、事前交流の効果が大きかったようです。家政科では、TV会議システムを通して他校の先生の指導によるコース作りや洗剤メーカーの専門家から講義を受けるなど、「距離を問わずプロの仕事に触れる」ことができたそうです。園芸科では、井原小学校や矢掛町の中川小学校とペチュニアなどの園芸を通じた交流、この外にも、大好評を得た一般市民対象のIT講座など、地域に開かれた精研高校の姿も垣間見ることができました。

「生徒自身が存在感を味わえること、地域と共に歩んで



TV会議システムでシンガポールと文化交流

第10号  
平成13年9月20日  
 (財)福武教育振興財団  
 (財)福武文化振興財団  
 〒700-0807  
 岡山市南方3-7-17  
 TEL.086-221-5254  
 FAX.086-232-3190  
 http://www.fukutake.or.jp/  
 印刷(株)シンプレス

### こんにちは 吉備楽十六日会

特徴は、雅楽が笙・横笛や箏が主奏楽器であるのに対し、吉備楽は箏が主旋律であるということです。現在約三百曲あり、家庭楽(家庭の趣味、団樂として演奏されるもの)、余興楽(歴史的な物語を振り付けて演奏されるもの)、祭典楽(宗教行事の中で演奏されるもの)の三つに分類することができます。

福武文化振興財団の伝統文化振興事業の助成対象である「吉備楽十六日会」を訪ねました。この日は、「笙」の練習日。数名の会員の方が練習されている中、代表の小野盛孝さんにお話を伺いました。まず、楽器を見せていただきました。笙十七本の竹を組み合わせているこの楽器は、吹いても吸っても同じ音が出るそうです。箏・東儀秀樹さんが演奏されることで有名な楽器ですが、相当の肺活量が必要とのこと。その他、横笛、箏、いすれも、実際に音を聴かせていただきました。

吉備楽は、明治五年に岡山藩の楽人、岸本芳秀翁により創始されました。雅楽に舞と歌を取り入れた岡山の郷土芸能といえます。当時は、ニューミュージックとして広く全国で流行したとのこと。その



後楽園300年祭での演奏



中川一政画伯の

### 不易流行論

岡山県立美術館

館長 宮地暢夫

中川一政(はな)画伯は、一般的には力強く躍動感のあふれる野獸派的な作風の画家として知られるが、書や陶芸、詩歌、随筆等にも優れ、独自の存在感があった。特別な学歴も、専門の師に就いて学んだ経歴もないが、早くからその道々で高く評価され、わが道を往くの気概を示しながら多くの人に敬愛され、文化勲章をも受賞した。

その中川画伯が、蕉門の向井去来の言葉を下敷にして、不易流行の考え方を述べている(「美術の眺め」)。「これを二つにわけて教へ

給へるそのもとはひとつ也。不易を知らざれば基たちがたく、流行を知らざれば風新たならず。不易は古によるしく後にかなふ句なる故、千歳不易といふ。流行は一時一時の變にしてきの心の風けふよるしからず、今日の風明日に用ひがたき故に一時流行とはいひ侍るなり」

中川画伯によれば、蕉門でいう流行は世間一般の流行とは意味が違う。世間的な流行は、服装やアクセサリーなどはやりすたりがあつても生命に別条はない。然し俳句における流行は、それを失うと俳句が死んでしまうのである。不易はものごとの本質であるが、五感によって掴むことはできない。人は目で見、耳で聞く流行を通して、不易を追うしかないのである。西郷隆盛の銅像を見て英雄と仰いでも、前にあるのは明治の西郷さんという流行であつて、不易の英雄ではない。流行は具体的な人の営みであるから、時と所を得て出現する。

目で見ると流行を通してその奥の不易を掴み、わがものとしてどのように流行に託すか、これは一にかかつて人それぞれの力量によることになる。コロの絵に感動した人が、いくらよく似た傑作を描いても、作品は死んでいる。一九世紀のフォンテンブローで結晶したコロの心は、二〇世紀にはおのずから違った現れ方をするからである。

以上が私の理解した中川画伯の不易流行論だが、この考え方を今日の教育問題にあてはめてみるとどうなるであろうか。新しい時代と社会の要請に即した教育をという至上命令の下で、改革の名によるいろんな施策が進められようとしているが、蕉門のいう流行の意味に耐えうるもの外、教育の生命に関わると思えない垂流もなほない気がする。関係者はその辺をブロの目で見定め、軽重のけじめをつけ、メリハリのきいた効果的な取り組みをしていただきたいと思う。(福武教育振興財団副理事長)

### 贈呈式

#### 第二回福武文化賞・福武文化奨励賞 第五回文化関係助成

第二回福武文化賞・同奨励賞及び第五回文化関係助成の贈呈式が、六月十五日、岡山ブラザホテルで行われた。

福武文化賞は、漆芸家の山口松太氏と世界の一流音楽家を地方に招いて音楽会を開催している株式会社くらしきコンサートが受賞した。

福武文化奨励賞は、能楽の普及に励んでいる観世流藤々會と児童文学作家あさのあつこ氏が受賞した。

文化活動の助成では、一般公募のものの特定・指定のものがある。公募分の文化関係助成としては、歌舞伎研究会「松神会」など伝統文化活動の団体や個人、戸川時代研究会などの伝統文化についての調査研究に対する助成がある。現代文化部門の文化活動では岡山県詩人協会など、調



文化賞・同奨励賞受賞者と来賓・財団関係者

おめでとうございます。

査研究では非営利組織「建築再生会議」などが助成を受けた。公募による助成は合計七十四件、上限三十万円、総額約千八百万円が贈呈された。

この他に、特定文化事業助成、伝統文化振興事業として

の助成の紹介もあった。

贈呈者の福武総一郎理事長は、「福武文化賞・同奨励賞を受賞された方々は、日々のご活躍が審査委員に深い感銘を与え、文化関係助成を受けられる個人・団体については日頃の熱心な活動が衆目の認めるところとなり今日の日を迎えられるました。心からお祝い申し上げます。」とお祝いのことが贈られた。また、「小さな町フィレンツェがルネサンスの時代に文化・芸術の力で世界を動かしたように、芸術・文化の力はすばらしいです。岡山の地でも地域の歴史と風土に根ざした個性ある文化がさらに継承発展することを願っており、当財団も微力ながら力を尽くす所存です。」と、あいさつした。

今年度初めて設けられた福武教育奨励賞は「教育の向上に著しい貢献が期待される者を奨励する」もので、社会科学の授業改革と生徒理解での実践と研究が評価された岡山市立岡輝中学校の久山将弘教諭と、テレビ会議システムを利用した遠隔英会話学習などの英語教育で実績を上げている

#### 福武教育振興財団贈呈式

#### 福武哲彦教育賞に岡山県立精研高等学校 福武教育奨励賞に久山将弘・藤本貴司両氏へ

教育研究助成・図書助成・英語教員研修助成等も贈呈

七月二十七日、福武教育振興財団の中心事業である表彰と助成の贈呈式が、関係者百三十九人が出席して岡山市内のホテルで開催された。

第十五回を迎えた福武哲彦教育賞は「岡山県の教育の向上に著しく貢献した者の栄誉をたたえる」もので、岡山県立精研高等学校が受賞した。園芸科学科及び家政科でマルチメディアを積極的に活用して成果を上げていることが受賞理由である。

今年度初めて設けられた福武教育奨励賞は「教育の向上に著しい貢献が期待される者を奨励する」もので、社会科学

岡山県立岡山城東高等学校の藤本貴司教諭に贈られた。助成関係では、研究や先進的な実践を助成する教育研究助成が一件の上限二十五万円、四十一件に、図書助成としては総額七百万円が三十二の学校園へ贈られた。英語教員研修助成は、英会話を専門の学校で二週間受講するもので、二十人の先生方にチャンスが与えられた。この外に、指定研究助成や特定教育事業助成の贈呈もあった。



教育賞受賞者・教育研究助成を受けた方々と来賓等

にまとめて公開し、一部は発表会で発表しているところにある。発表会の内容が充実したものであり、発表の方法もインパクトのあるものなので、どうか一人でも多くの方に参加していただき、未来からの留学生である今の子どもたちに「よりよく生きる力」を身につける教育という意味

での先進的な教育活動の新しい動きを見ていただきたい。」受賞者は受賞後、緊張した面持ちで、謙虚ながらも強い信念のもとに実践してきたことを披瀝しながら、今後の研鑽の決意などの抱負を述べられた。

式後の懇親会では、受賞者や来賓、理事長を囲んで、自己紹介と情報交換、新しい時代の教育の在り方など、和やかに教育談義が続いた。(武)

#### 「おかやま教育の日」協賛 講演会のご案内

演題 「日米のはざまに生きた画家・国吉康雄」

講師 東京女子大学名誉教授

日時 平成十三年十月二十九日(月) 猿谷 要 先生

場所 ベネッセコーポレーション 本社大ホール(岡山市南方)

\*国吉康雄美術館の作品も鑑賞していただきます。